

令和7年度 第1回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和7年10月2日(木)午後1時30分～3時15分

○場 所 能代山本広域交流センター 第一研修室ほか

○案 件

(1)第3期のしろ創生総合戦略の推進について

①第3期のしろ創生総合戦略の概要について

②若者・女性に選ばれる地域づくりについて

③高校魅力化推進事業について

(2)意見交換(グループワーク形式)

・上記②③を議題として意見交換

○内 容 2グループに分かれ意見交換 50分

A	あきた白神農業協同組合、能代観光協会 秋田県立大学、秋田銀行能代支店、 能代市私立幼稚園 PTA 連合会、 二ツ井地区区長連絡協議会 東北電力能代電力センター、ふたつい女性連合会、 能代市地域おこし協力隊
	事務局:(能代市)2名
B	二ツ井町商工会、能代地区高校校長会 能代公共職業安定所、秋田県山本地域振興局 北都銀行 能代支店、連合秋田能代地域協議会、 能代市自治会連合協議会、能代郵便局、 能代市移住サポーターズ
	事務局:(能代市)2名

＜総合戦略会議での意見交換の概要＞

グループA

出席者 あきた白神農業協同組合、能代観光協会、秋田県立大学、秋田銀行能代支店、
能代市私立幼稚園 PTA 連合会、二ツ井地区区長連絡協議会、
東北電力能代電力センター、ふたつ女性連合会、能代市地域おこし協力隊

○意見：若者・女性に選ばれる地域づくり

- 委員 採用の話でいうと、男女の職員を募集してもなかなか女性は集まらない。大学の教員試験では女性限定で募集している。女性の中でも管理職というのが地方は少ない傾向がある。議会でも女性が少ない印象。女性市長といった活躍している人もいる。いきなり女性にいろいろ働きかけていくことは母集団も少ない中で難しい取り組みでもある。
- 委員 こちらに嫁いでは苦勞したという友人がいた。そのお子さんに自立した女性になりなさいと指導をしていた。弁護士になった子もいる。自立していくという気持ちを持つことが大切だと思う。
- 委員 女性に求めるものが昨今多いと感じている。20代～30代は一般的に子育てに追われる年代が多いのに、家事、仕事、役職もついて回ると体力的にも疲弊してしまう気もする。女性の活躍推進と同時に女性のメンタルケア、秋田県でも推進している「共家事」のような家事分担といった意識が増えたらより女性が活躍しやすくなるのかなと考えている。
- 委員 昔は男の仕事と呼ばれていた仕事が、女性が望んで仕事ができている世の中になってきている。男女どうこう関係なく働けるということをもっとアピールしていくことは必要だし、進んでいくかと思われる。バスとかタクシーの運転手とか土建屋さんでも女性が活躍している場面を見る。
- 委員 女性の管理職が増えてはいるが、自立している女性は外に出て行ってしまうのでこの地方においては、そういった女性へのサポート、環境づくりをすれば女性がこの地域に残ってくれるのかということを考えていかなければならない。女性に自立させたいのか、女性を地方に残したいのかということも議論が必要と思った。近年はそもそも男女ともに若い人からの応募がない。なぜ残らないのかという分析については私もなかなか答えを出せていない。
- 委員 子育て世代のお父さんにも話を聞くと、賃金、休み、職場環境に対する不満から東京や宮城に行きたいという声は聞く。自分も昔は周りの大人から、勉強して、いい大学に入って、いい企業に入りなさいと言われてきた。学校の先生でもこれまで同じように発破をかけてきていて、今この地方の人口減少が進んでいる現象をみるとそのように指導していたことを後悔しているとの声が聞かえてきた。昔は頭のいい子が市外に出て行ってしまうのは1人か2人で、最近では中学高校から昔以上に子供たちが市外に行ってしまう。子供に関しては不安をたくさん抱えている。
- 委員 中山間地は高齢者が担っている。孫が3人女の子、長女は県外の大学、末っ子は秋田市、今の学生は昔の自分たちの時代に比べて、自分の将来を非常に考えている。多様な仕事があれば中々選ばれないし、男女問わず、選ばれない理由は仕事がない。
- 委員 「若者・女性に選ばれる地域」という印象が直感的に感じられるまちに対外的に見られるようになるということだと、例えば、女性議員が半数とかだったら女性が活躍している、女性目線の意見が出るといった形で目立つ地域になっていくということもよいかもしれない。
- 委員 今は県知事や代表になる人は若い人になってきている。現状の体制のままではいけなさと感じる方が増えている中で、若い人により目を向けなければならない。私は今回委員をやめるが本当に忙しい中でも、小さい子供がいる子育て世代の方が委員を担ってくれると言っている。今の若い人は働きながらの子育てで本当に忙しい。そんな状況でも、思いや気持ちを持ってくれていて、

託児対応をしてもらったり、同じように思いを持つ子育て世代で出られる方がいれば出席してもよい、ということになれば積極的に出たいというお話をいただいた。

委員 大館市長が最年少市長ということで、大館市民が若い人を支持している結果ということもあるが、注目を浴びる話題にはなるし、東京にいる知り合いからも、何か変わるんじゃないかというような期待感の声を聞いている。

委員 先日社会福祉協議会の採用面接があり、子育てを終えた方で働きたいと思ったときに該当となった職場が社会福祉協議会しかなかったという声があった。子育てしながらでも仕事をしやすい環境づくりを市から民間の方に働きかけていただけるとありがたい。能代市が子育て中でも働きやすい環境が整っているというイメージがつくといいなと思う。

事務局 今年度若者・女性に選ばれる地域の推進チームを立ち上げた中で、今後企業へ、労働する方の働き方について考えてもらうようアプローチしていくことを検討している。長年の男性社会の中で生まれた「男性がやる仕事」というものに女性が取り組んでいるということも進んでいるが、そういった仕事を望まない女性も多数いると思うので、もっと働く女性の方々が活躍できる環境づくりが必要であると考えている。

○意見：高校魅力化推進事業

委員 秋田市内高校のみ定員率が 100%を超えていた。今年の取り組みとしては試験的に能代高校が制服の自由化を実施している。

委員 郡内、郡外の生徒流出入もそうだが、県外からどのくらい来ているかということも知りたいと思う。

委員 日本航空石川は生徒数 70 人と少ないが、野球部が甲子園に出ている。マンモス校ではなく、生徒数が少なくてもやれることはあるし、魅力があるんだろうなと思う。

事務局 各学校では様々な取り組みをしているが、日本全国で同じようなものが散見しており、差別化できていない。長年の学校のレベル分けみたいなのは昔ながらのものが影響して積み上げられているのでなかなか解消が難しいと思うが、そういった固定的な考え方は解消していく必要もある。

委員 サンプルのようなサポートできるような環境づくりが必要。

委員 秋田市に通う学生が私たちの代では一人くらいだったけど、秋田市へは今多くの子供たちが行っている。親御さんがいいところに働かせたいという意見があるかわからないけど、学生たちがわざわざ電車に乗って通っている光景をよく見る。高校時代でしか味わえない青春を考えると、通学の時間がもったいないと思う気持ちもあり、昔と現状のギャップに驚いている。

委員 学力の話が中心になっているが、能代高校の定時制二ツ井キャンパスがあり、昔ながらの日中働いて夜間通うというようなイメージを持たれているものの、現在は通常の高校と少し時間がずれた程度で、日中の授業という形が主になっている。市外からの通いも多いようである。学校の在り方も変わってきている。

事務局 夏休みのキャンパス見学で秋田市の学校へ行く子が多い。憧れの先輩や塾で友達ができて、SNS でみんなつながり、秋田市への進学が選択肢として増えている。大人が言うよりも同世代の先輩の影響力が大きく、結果自立が進んで、秋田市に行きたいという子供が増えている。学生が学校生活を楽しんでいる様子を発信することで、その学校が魅力的に見えるということもある。新しい情報発信が必要なのでは。

委員 他の学校をみても強い部活動が長く続いていたが指導者がやめるとそこで途切れたりしている。

委員 スポーツだけではなく勉強でも文化的なことでも、有名な先生・指導者がいる学校ということも特色になりうることもある。

委員 今回の会議のご案内をいただいたときに、女性のことにに関する話し合いをするのであれば、実際の若者や女性といった当事者に参加してもらうのがよいのではと感じていた。

- 委員 能代は文化的なことが感じられる場所が少ないのと友人に言われたのがショック。
- 委員 収益に直結するのもそうだが、職場内においても、集約化やDX化が進み女性が担当していた業務もなくなり、今電力センターは全員男性となっている。近代化の大きな流れの影響を受けているのかなとも感じている。
- 委員 大学があるのとないのとはやはり地域経済にも影響を与えている。学生が地域の労働人口となることで人手不足の一助にもなっている。

グループB

出席者 ニツ井町商工会、能代地区高校校長会、能代公共職業安定所、
秋田県山本地域振興局、北都銀行能代支店、連合秋田能代地域協議会、
能代市自治会連合協議会、能代郵便局、能代市移住サポーターズ

○意見：若者・女性に選ばれる地域づくり

- 委員 能代高校の生徒は一旦この地域から離れる。市外へ出た後で戻りたいと思ってもらえるように、まちへの愛着を育むことは効果があると感じる。
- 委員 高校の魅力化によって優秀な人材を育成し輩出することで、この地域に魅力を感じて、外からも企業も入ってくるのではないかな。
- 委員 小規模企業の支援をしている。人手不足が課題、情報発信が課題だと感じている。自社PRが必要。小さいところでも魅力ある商品がある、その情報が届けば、地元で働きたいと、若者の気持ちも変わるのでは。
- 委員 兵庫県明石市は、子育て施策の特色を出して人口を集めた。能代市も他の自治体に先駆けけた能代ならではの施策が重要。子供が少し成長してきて自分自身のキャリアに悩んでいる。子育てとキャリアの両立しやすさ、自分らしいキャリアを作っていける地域になれば、魅力あるまちになるのでは。
- 委員 地元就職を意識して取り組んでいるが特効薬はなく難しい課題。令和8年3月の就職希望者101内70人地元志望。卒業生の内7割が進学で、市外や県外へ転出する。その方々にいかに戻ってきてもらうことが重要。そのために何を売りにして地元に戻ってきてもらうか、アピールするのか？同じ年代の仲間がいないと。友達がいれば戻る。中学生に地元の企業を知ってもらうような取組を実施しているが、最終的には親御さんの意識を変えることが重要。進学した先の生徒のあとを追えないが、どうやってピンポイントで情報提供するかが重要。
- 委員 県外にいった人たちがなぜその職業・職場を選んだのか知りたいが、そうした機会はなかなか無い。昔と比べて労働環境も良い方に変わってきているが、実態はどうか？サービス残業等があるのではないかな、良い会社を選んだつもりが行ってみたらそうでもなかったということもあるのでは。SNSの誤った情報を鵜呑みにして、権利を拡大解釈したり、やっかいな、扱いづらい新人がいたりする。怒られ慣れてない人や現実を直視してない新人もいる。新人が過剰に反応してくると教育係も接しづらくなる。自分は能代にいても困ることはないと思っていたので、県外に出て行くという意識が無かった。就職のしやすさから工業高校に進学して就職した。若い人が入社してこなくなった理由として、新入社員の教育係に若い世代に近い社員を担当させるが、それでも世代間ギャップが生まれてくるくらいに若い社員が少なくなっている。自分の職場にも数年は新人が入っていない。女性が働きやすい職場環境をつくるにも男社会の職場でノウハウがない。現場と事務で働く人それぞれに求めているものが違う。若者・女性に選ばれる職場づくりには時間もコストもかかる。現場で働く女性は少なく、女性でもできる仕事への配置となるため、仕事の選択肢が少ない。

委員 郵便局、配達がメイン、男性中心で、女性の配達員もいるが、郵便局を選ばない傾向にある。地元就職した同級生を見ると、親元から通いたいという理由が大きいのではないか。地域で働き、生活できる環境が重要。市内の働き口、市内企業の情報を発信することで少しでも流出が防げるのでは。友達がいること、女性が働きやすい職場環境があること。

委員 銀行員としての知見、省力化、外貨を稼ぐといったアドバイスをすることが多い。様々なことを細分化して検討して、課題を出していると思うので PDCA を回すしかない。0 から 1 を生み出すよりも他地域の状況を把握して、良い取り組みを取り入れて試行しながら見直していくのが最適では。

○意見：高校魅力化推進事業

委員 入学者数が少なくなってきた。1 年生の市内からの入学者は 1 0 0 人を切っている。能代市の過去の出生数とリンクしている。高校の魅力化をしっかり考えなければ今後も生徒数が減少していく。部活等で市外へ進学する生徒もいるが、その理由を具体的に聞きたい。中学生に市内高校の魅力伝える方策を検討する必要がある。

委員 この地域から課題解決能力のある人材を育成できるかが鍵、学校だけではなく、企業との連携も重要。

今春の全県の高卒県外就職者 470 人中、工業高校工業科が約 200 人で最多。こうした状況から科学技術高校と次年度事業について相談し、模索している。

委員 自分は県立高校の調理師免許がとれる特色ある学校を選んだ。親として、子供の将来のキャリア的な視点が大事。沖縄などでは高校にキャリアコンサルタントを配置している事例もあり、親としても安心して一緒に考えられるので、そうした取り組みも良いと思う

委員 出生率が減少しているので、どんなことに力を入れている高校か、各校それぞれの特色を出すことが重要。

委員 能代には 3 校ある、学力で進学先を選ぶことが多いのでは。今ある高校の中で、学力で高みを目指す人以外と考えると、部活のほかに面白い、楽しいと思えるような魅力があれば良いのでは

委員 羽後町では高校魅力化プロジェクトやっていた。そこでは高校給食を始め、生徒数が増加していた。